

郵便局ファンの会会長
元明治大学学長（比較政治学）

おかの 加穂留
岡野



私の視点

郵政民営化法が参院で34票差で可決、成立した。わずかに2カ月前に、17票差で否決された法案と、骨格は何ら変わっていないにもかかわらず、だ。

「良識の府の代表として欠陥法案には賛成できない」「信念に基づいて行動した」と胸を張っていた彼らは、賛成票を投じた自らの行為をどう説明するつもりだろうか。何と釈明しようが、党本部に屈し、自己保身に走った「不良識の

opinion news project

府」の恥ずべき議員として、歴史に名を残したことだけは間違いない。

小泉首相は来年9月の退陣を表明している。後継者争いが強まるにつれ、レームダック（死に体）となることは間違いない。1年も我慢すれば次の首相が誕生するのだ。除名処分となっ

これは、ものごとを単純化し、敵を作り出す小泉首相の手法にしてやられた結果でもある。「郵政改革ができてどんな大改革ができるのか」と繰り返し、法案に疑問を呈すると守旧派の烙印を押される中で、国民も議員も郵政民営化こそが首相の唱える「小さな政

企業に地元商店が挑むようなもので、現在の条件では競争にならない。郵便局網の維持という約束も、ポスト小泉政権になればどうなるか分からない。国民の安心感を犠牲にし、ただ米国の投資家らを喜ばすだけの施策にしか見えない。

陣時期に合わせ、会を「郵政オンブツマンの会」に衣替えし、引き続き論陣を張るとともに、利用者の目から民営化プロセスを監視していくつもりだ。

国民にとってよりよい形を守るためには、労働組合も、より積極的に活動しなければならぬ。日本郵政活動を増強し、日常的に意思表示をする必要がある。法の成立ですべてが終わったわけではない。近所の郵便局に廃止の動きはないか。郵便貯金や簡易保険は安全に運用されているか。私たち一人ひとりがチェックを続け、問題があれば民営化撤回の声を上げなければならぬ。それは、決して守旧派の主張ではなく、自分たちの暮らしを守るための取り組みなのだ。

◆郵政民営化

利用者の目でプロセス監視を

ても、信念を貫き通した方が国民の信頼を勝ち取り、中長期的に見れば政治家として得るものは大きかっただろう。さらに、小泉退陣後に民営化実施の延期や廃止法案を提出し、あくまで民営化を阻止する姿勢を示せば、参院の独自性も示すことができたはずなのに、

「府」を実現する道だと思いついてしまった。

立したことは動かしようのない事実だ。政治家や官僚任せにするのではなく、私たちは自らの手で暮らしのセーフティーネットを守り通さなければならない。

私は04年9月、学者や企業人らが発起人となった「郵便局ファンの会」の会長に就き、民営化の阻止を訴えてきた。小泉首相の退

公社の現場は日本郵政公社労働組合（JPU）、旧全通（全郵政）などに分かれていて、互いに組織の拡充を競い合うのではなく、一本化するべきだ。

変節は残念でならない。

資金は国内の民間部門には流れず、米国を中心とする海外に流出するのがおちだ。民間参入も期待できるというが、旧財閥系の巨大

そして、選挙の時にだれを支持するかということでは、存在感を示すのではなく、デモなど合法的で平和的な

投稿規定 1300字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒104・8011朝日新聞社企画報道部「私の視点」係へ。電子メールはsiten@asahi.com 二重投稿、採否の問い合わせはご遠慮ください。本社電子メディアにも収録します。原稿は返却しません。

投稿規定 1300字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒104・8011朝日新聞社企画報道部「私の視点」係へ。電子メールはsiten@asahi.com 二重投稿、採否の問い合わせはご遠慮ください。本社電子メディアにも収録します。原稿は返却しません。